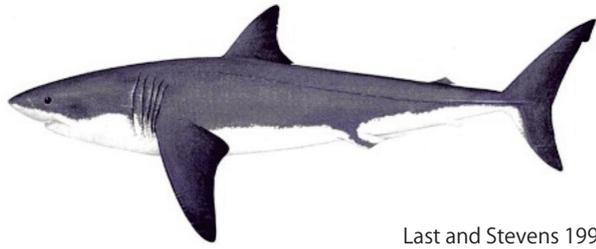


ホホジロザメ 日本周辺

Great White Shark, *Carcharodon carcharias*



Last and Stevens 1994

管理・関係機関

国際連合食糧農業機関 (FAO)
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

最近の動き

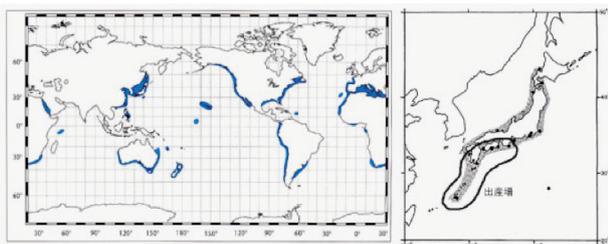
世界的に、特に目立った動きは見られなかった。

生物学的特性

- 寿命：おそらく 22 年以上、放射性炭素同位体に基づく推定では、雌で 40 年、雄で 73 年は生存するとされている。
- 成熟開始年齢：雌 7 ~ 13 歳、雄 4 ~ 10 歳
- 繁殖期・繁殖場：2 ~ 3 月 (沖縄)、4 ~ 5 月 (南西日本沿岸域)
- 索餌場：熱帯・温帯の沿岸域
- 食性：硬骨魚類、さめ類、海棲哺乳類、海鳥、ウミガメ等
- 捕食者：シャチ

利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料に、肉は食用になる。歯や顎が工芸品にされ高価格で取引されるが、我が国ではほとんど利用されていない。



日本周辺と世界のホホジロザメの分布
(手島 1994 一部改変、Last and Stevens 1994)

漁業の特徴

我が国のみならず全世界で本種を対象とする漁業はなく、漁獲情報は不明である。稀に定置網に迷入する。

漁業資源の動向

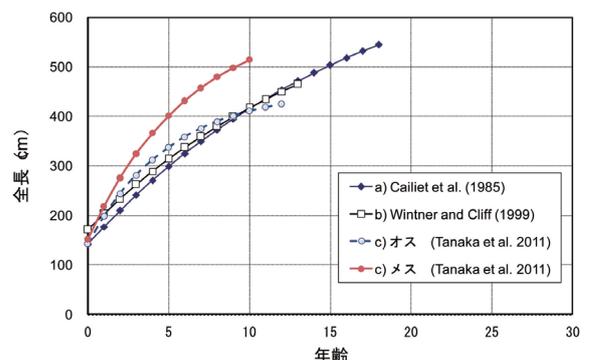
文献や新聞等に記録された本邦周辺海域の本種の年別出現数をみると、過去 50 年間にわたりほぼ均等な頻度で出現が記録されている。1992 年に 14 件、1993 年に 7 件の報告があるのは、1992 年の本種による事故でマスメディアの関心が集まった結果、例年よりも熱心に報告されたためと考えられる。2000 年以降は、出現記録のない年もあるが、日本周辺海域においてほぼコンスタントに確認されている。

資源状態

本種を対象とする漁業はなく、本種資源を定量的に分析できる資料はない。全国の定置網に偶発的に迷入された記録等があるのみである。

管理方策

本種の規制措置は無い。我が国には本種を対象とした漁業はなく、積極的な漁獲努力は行われていないので、特に管理方策を策定する必要はないと考えられる。なお、本種が絶滅の危機にあるとして、2004 年のワシントン条約第 13 回締約国会議では、附属書 II への掲載がオーストラリア、マダガスカル共同で提案され、採決の結果、掲載提案が採択された。このことから、ホホジロザメの魚体、ヒレなどを含む一切の派生物を国際取引の際は、輸出国による輸出許可書の発給が必要等、ワシントン条約による制限がなされている。



ホホジロザメの成長曲線

ホホジロザメ (日本周辺) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	—
資源動向	—
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	年間 1 ～ 2 個体程度の出現が報告 されている
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—